

『現代女性とキャリア』第13号によせて

現代女性キャリア研究所所長

坂本 清恵

第2代所長大沢真知子教授の定年退職にともない、このたび、第3代の所長を拝命いたしました。自身の専門は日本語学、日本語の歴史研究であり、大きく専門は異なりますが、2015年に本学生涯学習センター所管のリカレント教育課程主任を拝命、2016年からは同センター所長として、生涯教育の機会拡大をはかり、特にリカレント教育課程における社会人女性の再教育、再就職の実現に取り組んでまいりました。この間、現代女性キャリア研究所とリカレント教育課程、さらに西友による共同事業「リカレント生のためのセルフリーダーシップマネジメント」の運営に携わる機会もありました。

2016年に女性の職業生活を充実させる女性活躍推進法が施行され、各企業も多様な働き方を取り入れるようになりました。また、所謂M字カーブの解消につながる人材を輩出するリカレント教育が、広く社会の注目を集めつつあります。2019年には日本経済団体連合会が、リカレント教育をめぐる協議を大学との間で開始しています。

しかし、女性の学びと就労には、大きく環境が改善したとは言い難い状況がいまだに続いています。人生100年時代を生き抜くため、学びを続け、就労を継続するには、一体何をなすべきかを模索しつつ、現代女性キャリア研究所では、これまでに蓄積してきた研究成果をさらに充実発展させたいと思います。学内外の研究機関や、経済団体等と連携しながら、女性活躍に関するさまざまな研究プロジェクトを推進するネットワーク拠点として、鋭意取り組んでまいります。

さて本号には、大沢教授の最終講義と、同日3月13日(土)に開催されたシンポジウム「コロナ禍で女性労働を見つめ直す」の報告を掲載しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響は、女性労働者にとりわけ大きな影響を与えました。コロナ禍がもたらしたさまざまな事態を、多方面の分野からパネリストが検証し、テレワークにおける機会不平等、女性の雇用危機など、課題と対応策について議論された内容を振り返ることができます。ご登壇くださったシカゴ大学の山口一男先生、独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員の周燕飛先生(現日本女子大学人間社会学部教授)、日本労働組合総連合会常任中央執行委員の井上久美枝先生、そしてコーディネーターを務められた大沢先生に、心より御礼を申し上げます。

現代女性キャリア研究所がこれまでの果たしてきた役割を、決して失速させることなく、未来へと繋いでいく所存です。ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。